

■競技上の確認事項

- 1 本大会は、特別に定める小学生バレーボール・フリーポジション制、及び 21 点ラリーポイント制を用い、他は、平成 27 年度公益財団法人日本バレーボール協会の 6 人制競技規則に基づいて行う。なお、コートのおおきさは 8m×16m、サービスゾーンの幅は 8m、ネットのたさは男女とも 2m とする。
- 2 競技方法は、大会 1 日目は、男子は 4 チーム、女子は 3 チームのリーグ戦を行い、2 日目は、男子は 1 位～4 位、女子は 1 位～3 位の順位毎のトーナメントを行う。
- 3 試合開始時刻は、大会日程に記載されている時刻で行うが、コートの設営や移動時間により変更することもある。各会場の競技委員の指示に従うこと。
- 4 試合進行についてはプロトコールの規定により行う。
- 5 各試合、コートチェック終了後 5 分（試合が連続する場合は 15 分）間の試合前練習を行うことができるが、ネットを使つての練習はできない。また、登録されたベンチスタッフと選手のみとする。
- 6 試合は、すべて 3 セットマッチ追い込み形式で行うが、連続する場合は、最大 15 分間（試合前練習の時間）休憩を取ることができる。
- 7 チーム編成は、監督・コーチ・マネージャー各 1 名と選手 14 名以内、計 17 名以内とする。ベンチは、登録されたもののみ着席を認める。
- 8 監督・コーチ・マネージャー章は必ず左胸につけること。なお、ベンチスタッフの内 1 人以上の者が日体協スポーツ指導員資格証を首から掲げていること。
- 9 ベンチには競技に必要な飲料水（ストロー付きまたはスクイズボトル）、救急用具以外の品物は持ち込まない。
- 10 横断幕（一枚：天地 70 cm×幅 5m まで）やのぼりの掲出は試合該当チームのみ認める。但し、ガムテープなどの粘着テープは使用できない。のぼりは観戦の邪魔にならないように観客席最後列に掲げること。
- 11 応援については、大音響のもの、ホイッスルと似た音が出るものの使用を禁止する。また、競技上妨げとなる場合は、競技役員の手示に従うこと。応援用メガホンなどで壁や手すりなど叩かないようにチームで注意すること。
- 12 エントリーの変更、並びにプログラム記載事項の誤りは、11 月 28 日（土）の受付時エントリー係に提出し承認を得ること。なお、変更がない場合も変用紙に必要事項を記入し提出すること。
- 13 施設電源の使用は禁止する。
- 14 喫煙は指定の場所で行うこと。
- 15 大会使用球は、男子がミカサ、女子がモルテンとする。
- 16 試合終了後、両チームは速やかにベンチをあけること。次の試合の両チームは、コートチェック終了後、競技委員の手示があるまではコートに入ることはできない。
- 17 ベンチスタッフの T シャツ・短パンは認めない

■審判上の確認事項

- 1 トスについて
(1) トスは記録席の前で試合開始 11 分前に行う。
(2) トスにはチームキャプテンが立ち会い、キャプテンマークの付いたユニフォームを着用すること。
- 2 公式練習は試合開始 10 分前より、両チーム合同で行う場合は 6 分間とし、単独で行う場合は 3 分間とする。
- 3 スコアリングシステム
小学生のためのラリーポイント・システム 3 セットマッチとする。
第 1 セットおよび第 2 セットではリードするチームが 11 点目達したとき、第 3 セットでは、リードするチームが 8 点目に達したときは、30 秒間のテクニカルタイムアウトが自動的に適用される。
- 4 「ネットの下からの相手コートへの侵入」
片方の足（両足）または片方の手（両手）が、センターラインを越えて相手コートに触れても、侵入している片方の足（両足）または片方の手（両手）の一部が、センターラインに接しているかその真上に残っていれば許される。他のいかなる身体の部分も相手コートに触れることは許されない。
- 5 「ネットへの接触」
(1) ボールをプレーする動作中の選手による両アンテナ間のネットへの接触は反則である。
ボールをプレーする動作の中には（主に）踏み切りからヒット（またはプレーの試み）、着地までが含まれる。
(2) 相手チームのプレーを妨害しない限り、選手は支柱、ロープ、またはアンテナ外側にあるネットや他の物体に触れてもよい。
- 6 選手が負傷して例外的な選手交代をした場合、負傷した選手は、その試合に復帰することはできない。
- 7 監督は、ラリー中はベンチに座っていなければならない。
- 8 試合中、ベンチスタッフは、統一されたウェアを着用する。